



# た り い あか さか 垂井宿 ~ 赤坂宿

約 5.2 km

歩き旅

## 中山道ぎふ17宿とは?

江戸時代に整備された五街道の一つである中山道は、江戸と京都を結ぶ重要な街道で、全長135里32丁(約534km)に69の宿場が置かれました。そのうちの17宿、126.5kmが岐阜県的美濃地方を東西に横断しており、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」に認定されました。

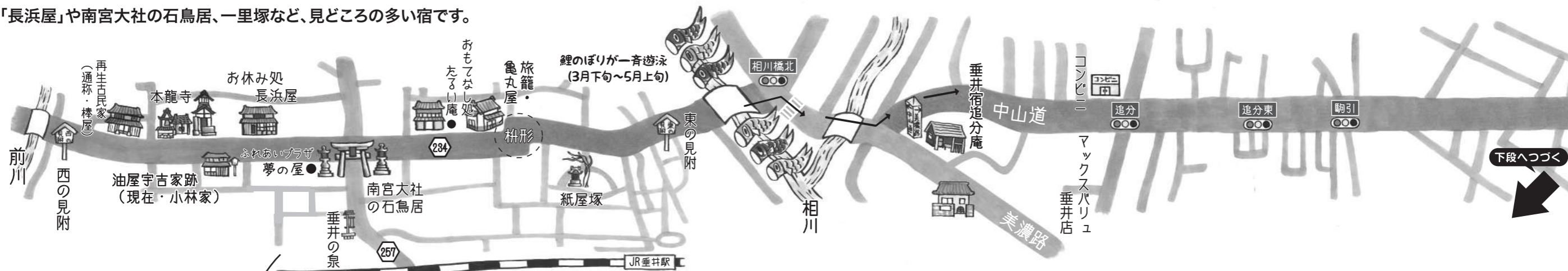
## 美濃国分寺跡

聖武天皇の頃、国情不安を鎮撫するため、各国に国分寺の建設が命じられました。美濃国分寺は全国でも最大級の規模を誇り、当時は七重の塔もそびえ立っていました。美濃国司は源頼光が務めていました。頼光は『今昔物語』や『御伽草紙』の主人公でもあり、坂田金時などの四天王を擁したことで知られています。

Topics

垂井宿

中山道と東海道を結ぶ美濃路の分岐点で、荷物の運搬が盛んに行われていました。江戸時代には旅籠屋として栄え、今は旅人のお休み処となっている築200年以上の「長浜屋」や南宮大社の石鳥居、一里塚など、見どころの多い宿です。



## お茶屋屋敷跡

関ヶ原の戦いの後、征夷大將軍となった徳川家康が京へ上洛するために4里ごとに造らせた將軍家専用の休憩・宿泊場所のこと。中山道の中で唯一残っている貴重な史跡で、現在はボタン園として有名です(見頃:4月下旬)。

## 垂井の泉

湧き出ている清水は、旅人の喉を潤し、地元の人々の生活用水に利用され、現在でも涸れることを知りません。1691年に松尾芭蕉がここで「葱白く 洗ひあげたる 寒さかな」と詠んでいます。

## 昼飯大塚古墳

おおうすのみこと ヤマトタケルの兄・大碓命の墓。全長150m、東海地方最大級といわれる前方後円墳で、国の史跡に指定されています。

江戸時代には旧杭瀬川のほとりに赤坂港が設けられ、水運の要衝として栄えた所です。赤坂港からはこの地域の名産である石灰のほか、米や木材などが伊勢湾を通り、桑名へと運ばれていきました。文久元年(1861)には和宮が本陣にお泊りになりましたが、その際に中山道沿いの空き家や空き地などに急増築した「お嫁入り普請」と呼ばれる建物が今も僅かに残っています。

赤坂宿

